

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2017年第12週
(3月20日～3月26日)

- * 2017年3月29日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「性行為感染症の治療と薬剤耐性(WHOの新たな治療ガイドラインを受けて)」も掲載しています。

平成29(2017)年3月30日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2017年12週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	68	58	51	44	725	273	4,722
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢		1			10	2	37
	腸管出血性大腸菌感染症	2		2	2	15	15	166
	腸チフス					1	1	6
	パラチフス		1			1		3
四類	E型肝炎	4		2	1	16	6	89
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	6	5	6		24	3	54
	エキノコックス症						1	8
	黄熱							
	オウム病							2
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}							1
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}							1
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							1
つつが虫病					2		38	
デング熱			2	1	11	6	45	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							5
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症	1				1		1
	マラリア			1		3		8
	野兔病							
	ライム病							1
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	4	2		2	28	58	253
レプトスピラ症					1		2	
ロッキー山紅斑熱								
2017/3/29集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 44件 患者 27件(肺結核 21件、その他の結核 4件、肺結核及びその他の結核 2件)、無症状病原体保有者 16件、疑似症 1件、年齢は10歳未満 2件(うち5歳未満 1件)、10代 1件、20代 6件、30代 3件、40代 6件、50代 9件、60代 5件、70代 3件、80代 9件、推定感染地は国内 43件、インドネシア 1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 2件 無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O91 VT型不明 1件、年齢は10代 1件、20代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件であった。20代 1件は、第11週に報告のあった患者の家族であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

デング熱 1件 患者、病型はデング熱、血清型は1型、年齢は40代、推定感染地はベトナムであった。

レジオネラ症 2件 病型は肺炎型 2件、年齢は40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 1件、インドネシア 1件、推定感染経路は水系感染 1件、不明 1件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2017年12週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	2	4	5	3	54	5	253
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1	1	5	15	4	67
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	2	5	2	38	12	313
	急性脳炎 *1	1		3	1	20	7	193
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病		2	1		7	2	37
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3	3	1	18	4	130
	後天性免疫不全症候群	12	5	7	4	102	10	285
	ジアルジア症	3		1	1	6	1	11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1			10	5	95
	侵襲性髄膜炎菌感染症						1	6
	侵襲性肺炎球菌感染症	13	10	7	14	117	65	872
	水痘(入院例に限る)				1	8	2	55
	先天性風しん症候群							
	梅毒	45	30	32	26	334	52	1,013
	播種性クリプトコックス症		1			5	1	31
	破傷風					1	1	11
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					3		23
	風しん		1		1	2	2	18
麻しん			3	3	9	5	65	
薬剤耐性アシネトバクター感染症							8	
2017/3/29集計								

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、バネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

（五類感染症）

アメーバ赤痢 3件 病型は腸管 2件、腸管外 1件、年齢は30代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は性的接触 2件(同性間 1件、異性間 1件)、不明 1件であった。

ウイルス性肝炎 5件 B型 4件、C型 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 1件、50代 2件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路はB型は性的接触 2件(異性間 1件、性別不明 1件)、不明 2件、C型は針等の鋭利なものの刺入による感染であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件 患者 2件、病原菌はエンテロバクター・クロアカ 1件、クレブシエラ・ニューモニエ 1件、年齢は10代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は医療器具関連感染(尿路カテーテル) 1件、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し 2件であった。

急性脳炎 1件 病原体はロタウイルス、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

後天性免疫不全症候群 4件 無症候キャリア 4件、無症候キャリアの年齢は20代 1件、40代 1件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は同性間性的接触 4件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は同性間性的接触または犬との接触であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 14件 血清型はすべて検査未実施、年齢は5歳未満 1件、10代 1件、30代 1件、50代 1件、60代 6件、70代 1件、80代 3件、推定感染地は国内 14件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 4件、不明 10件、肺炎球菌ワクチン接種歴は13価3回接種済み 1件、23価2回接種済み 1件、無し 10件、不明 2件であった。

水痘(入院例) 1件 臨床診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 26件 患者 20件(早期顕症梅毒Ⅰ期 8件、早期顕症梅毒Ⅱ期 11件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 6件、年齢は10代 1件、20代 5件、30代 7件、40代 9件、60代 4件、推定感染地は国内 25件、インドネシア 1件、推定感染経路は性的接触 25件(同性間 7件、異性間 15件、性別不明 3件)、不明 1件であった。

風しん 1件 検査診断例、年齢50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 3件 修飾麻しん 2件、検査診断例 1件、遺伝子型はD8 3件、年齢は10代 2件、20代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3件、麻しん含有ワクチン接種歴は2回接種済み 2件、接種不明 1件であった。

※ 第11週で報告のあった〔五類〕風しん 1件は削除された。

※ 第9週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第11週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件、梅毒 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2017年12週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2017年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		9週	10週	11週	12週		
小児科	RSウイルス感染症	25 0.10	29 0.11	36 0.14	26 0.10	261	264
	咽頭結膜熱	67 0.26	66 0.25	58 0.22	52 0.20		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	514 1.96	574 2.20	619 2.38	415 1.59		
	感染性胃腸炎	1,859 7.10	1,898 7.27	2,104 8.09	1,758 6.74		
	水痘	72 0.27	73 0.28	83 0.32	75 0.29		
	手足口病	17 0.06	9 0.03	10 0.04	9 0.03		
	伝染性紅斑	22 0.08	29 0.11	17 0.07	21 0.08		
	突発性発しん	131 0.50	113 0.43	138 0.53	99 0.38		
	百日咳	1 0.00	2 0.01	1 0.00			
	ヘルパンギーナ	1 0.00	1 0.00	3 0.01	1 0.00		
	流行性耳下腺炎	84 0.32	58 0.22	64 0.25	59 0.23		
	川崎病 *1	6 0.02	6 0.02	7 0.03	3 0.01		
	不明発しん症 *1	8 0.03	10 0.04	15 0.06	13 0.05		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	5,181 12.48	4,236 10.21	4,217 10.21		
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.03	1 0.03		39	39
	流行性角結膜炎	12 0.31	8 0.21	12 0.31	15 0.38		
基幹	細菌性髄膜炎 *3				1 0.04	24	25
	無菌性髄膜炎		1 0.04		2 0.08		
	マイコプラズマ肺炎	5 0.20	3 0.12	8 0.32	5 0.21		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1 0.04		1 0.04	1 0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4	12 0.48	21 0.84	16 0.64	34 1.42		
	インフルエンザ入院	21 0.84	25 1.00	21 0.84	16 0.67		

2017/3/29集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は減少し、東京都のインフルエンザ流行警報は終息した。
- ・ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)の定点当たり報告数は再び増加を認めている。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2017年12週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	6			10	1			2			
6～11か月	8	5	3	90	3		2	32			
1歳	7	13	12	238	1	2	2	46			1
2歳	2	10	25	187	2	1	3	14			1
3歳	3	4	37	149	7	2	5	2			2
4歳		5	50	206	13	1	3	2			10
5歳		7	49	159	9	1	2	1			9
6歳		5	67	146	11	1					8
7歳		1	42	106	12	1	2				7
8歳		1	29	76	4						5
9歳			29	46	6		1				6
10～14歳			49	125	4		1			1	8
15～19歳			4	36	1						
20～29歳		1	19	184	1						2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	26	52	415	1,758	75	9	21	99		1	59
先週比	-10	-6	-204	-346	-8	-1	4	-39	-1	-2	-5

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月			4			1				3	1
6～11か月	1		19							3	1
1歳		3	78				1	1		2	2
2歳		3	85							11	1
3歳		1	137							2	
4歳	1	1	198							5	
5歳	1	1	201					1		1	1
6歳		1	270		1						
7歳			209							2	1
8歳		2	202							1	
9歳			169							3	
10～14歳		1	548					1		1	
15～19歳			157								
20～29歳			135					1			
30～39歳			200		8						
40～49歳			207		3			1			
50～59歳			101		1						2
60～69歳			46		1						1
70～79歳			29		1		1				1
80歳以上			13						1		5
合計	3	13	3,008		15	1	2	5	1	34	16
先週比	-4	-2	-1,209	-1	3	1	2	-3		18	-5

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2017年12週

	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田				1.67							
中央区	0.33		1.33	6.33							
みなと		1.33	1.00	7.17	0.17	0.17		0.33			0.33
新宿区	0.38	0.13	0.75	6.88	0.13			0.38			0.13
文京			1.75	2.75				0.50			
台東	0.25		1.75	7.50				0.75			
墨田区			0.20	3.60	0.80			0.40			
江東区	0.33	0.11	1.11	10.33				0.22			0.11
品川区	0.13	0.25	0.63	6.25	0.25			0.38			0.50
目黒区		0.40	1.80	10.00	2.20	0.40	0.20				0.20
大田区	0.23	0.15	1.46	7.23	0.46		0.23	0.23			0.08
世田谷	0.13	0.19	1.44	4.63	0.31	0.13	0.06	0.38			0.13
渋谷区				6.00	0.25			0.50			0.25
中野区	0.17	0.17	1.67	11.67				0.50			
杉並			0.45	4.27	0.27		0.09	0.18			0.09
池袋		0.25	0.50	3.00	0.50						
北区	0.14		0.57	3.57	0.29			0.71			0.14
荒川区			2.75	5.00				0.25			0.50
板橋区	0.10		0.70	3.10	0.20	0.10		0.40			0.30
練馬区	0.08	0.15	2.38	7.00	0.46		0.08	0.08			
足立		0.38	1.46	10.31	0.15			0.23			0.31
葛飾区	0.13	0.25	1.00	7.38	0.25			0.38			
江戸川		0.18	2.09	7.91				0.73			0.18
八王子市	0.09		2.55	13.91	0.27		0.18	0.36			0.73
町田市		0.13	3.13	10.00	1.00	0.13	0.25	0.38			1.25
西多摩			0.75	4.25	0.38			0.38			
南多摩	0.33	0.11	1.00	4.89			0.11	0.33		0.11	
多摩立川		0.14	2.79	3.29	0.21		0.36	0.36			0.36
多摩府中		0.15	1.85	6.70	0.25	0.05	0.15	0.55			0.35
多摩小平	0.20	0.87	3.13	8.33	0.20	0.07	0.07	0.80			0.20
島しょ			7.00								
東京都	0.10	0.20	1.59	6.74	0.29	0.03	0.08	0.38		0.00	0.23

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			6.25								
中央区			5.40		1.00						
みなと			5.44				1.00				1.00
新宿区	0.25		3.50					0.50			
文京			5.71								
台東		0.25	4.33								
墨田区			6.13								1.00
江東区			5.93								
品川区			4.75								
目黒区			8.25								
大田区		0.15	8.35								
世田谷		0.19	10.00		1.50	0.50				2.00	1.00
渋谷区			3.29					1.00		11.00	
中野区			9.20								
杉並			5.12								1.00
池袋		0.25	3.86		1.00					7.00	
北区			4.64								
荒川区			17.29		1.00						
板橋区		0.10	2.88							3.00	
練馬区			6.62		0.50						
足立			9.05		0.50						
葛飾区		0.13	9.08		5.00		1.00	1.00		6.00	1.00
江戸川			6.56								
八王子市			8.67								
町田市			11.00								
西多摩			4.57								
南多摩			11.29								
多摩立川		0.07	8.19					1.00			1.00
多摩府中		0.05	8.13					0.50	0.50	1.50	2.00
多摩小平	0.07	0.13	7.61		1.00						2.00
島しょ			3.00								

東京都	0.01	0.05	7.28		0.38	0.04	0.08	0.21	0.04	1.42	0.67
-----	------	------	------	--	------	------	------	------	------	------	------

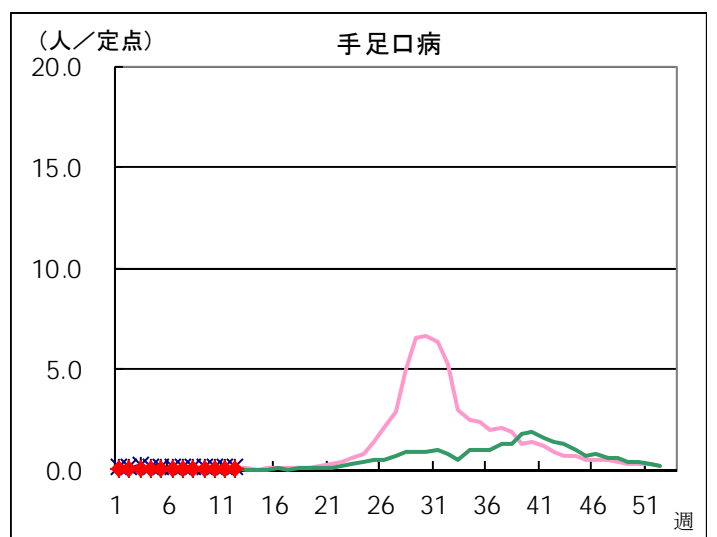
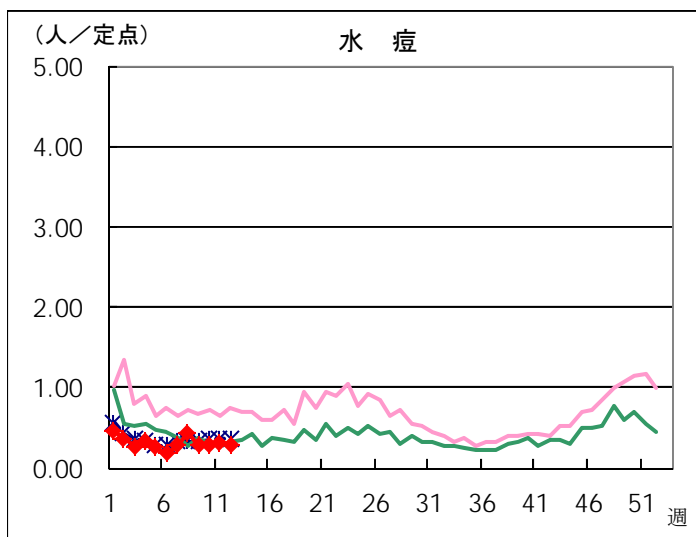
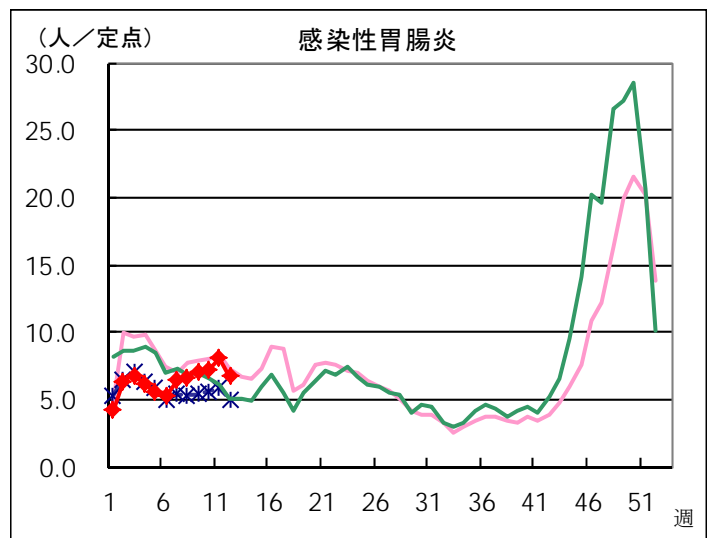
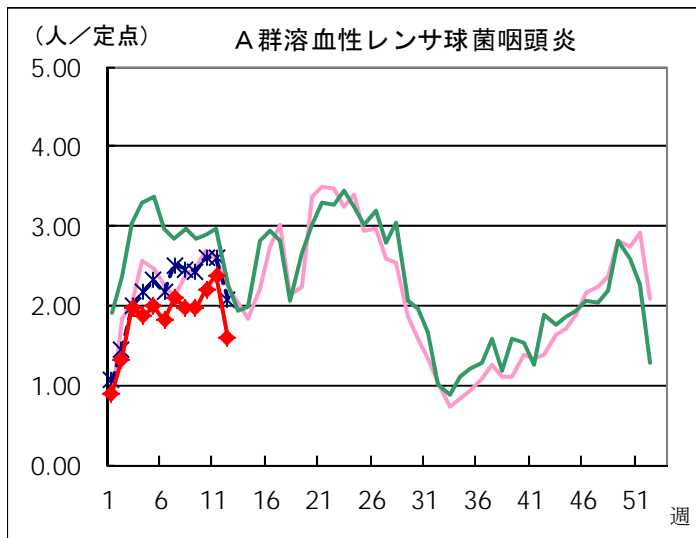
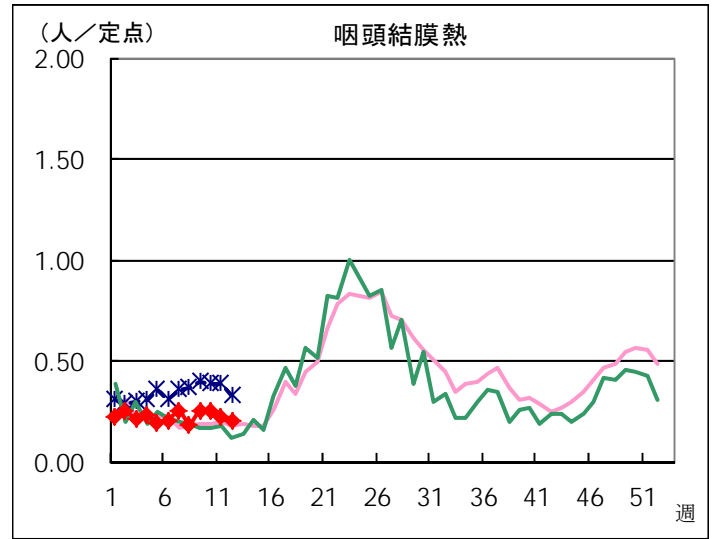
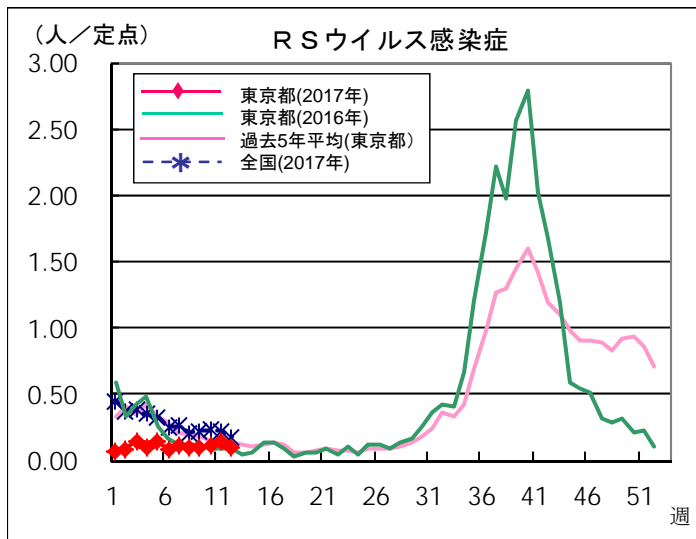
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2017年12週

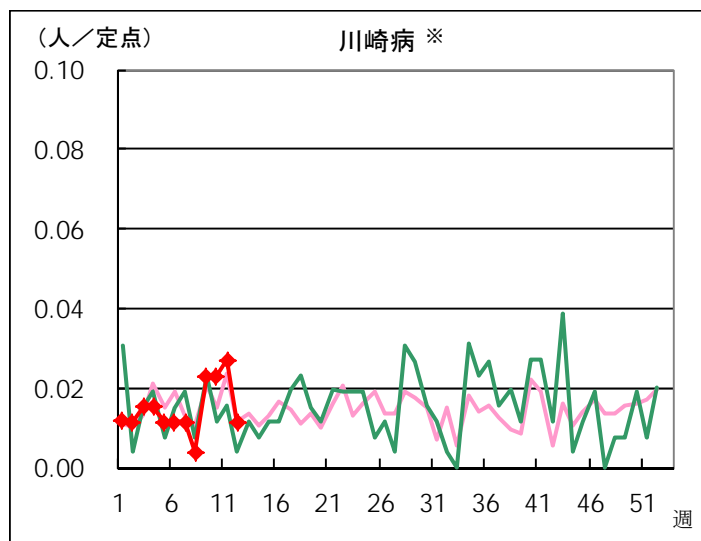
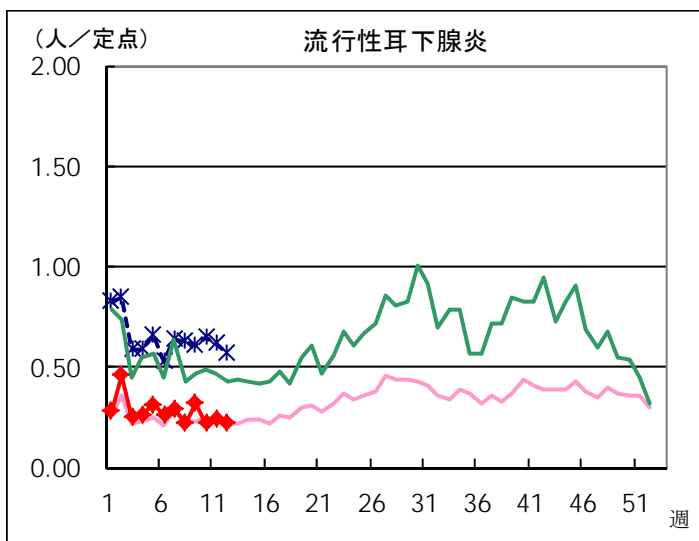
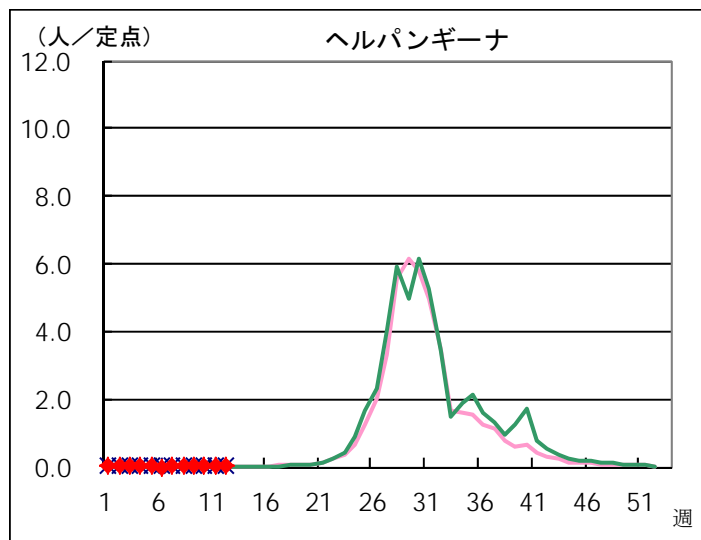
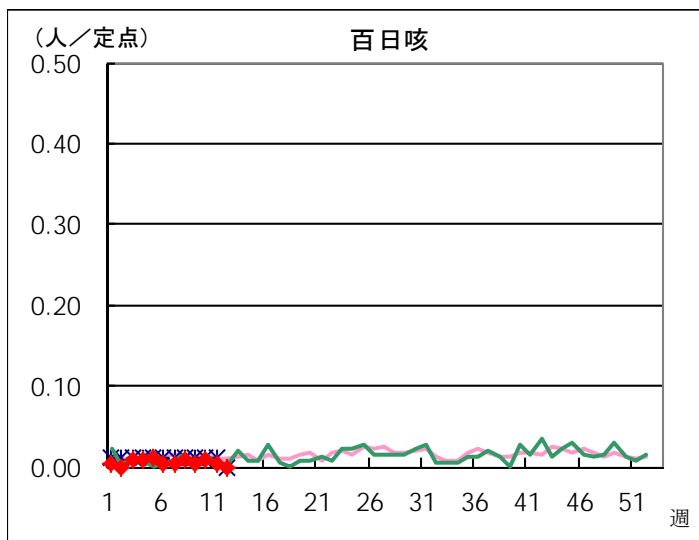
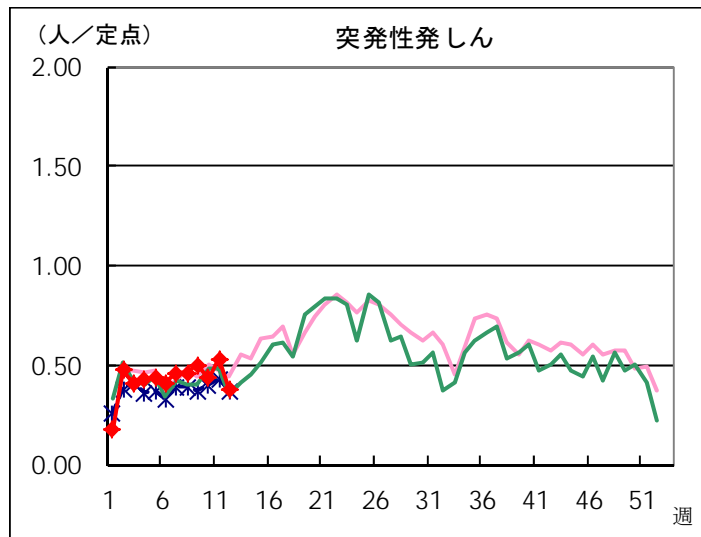
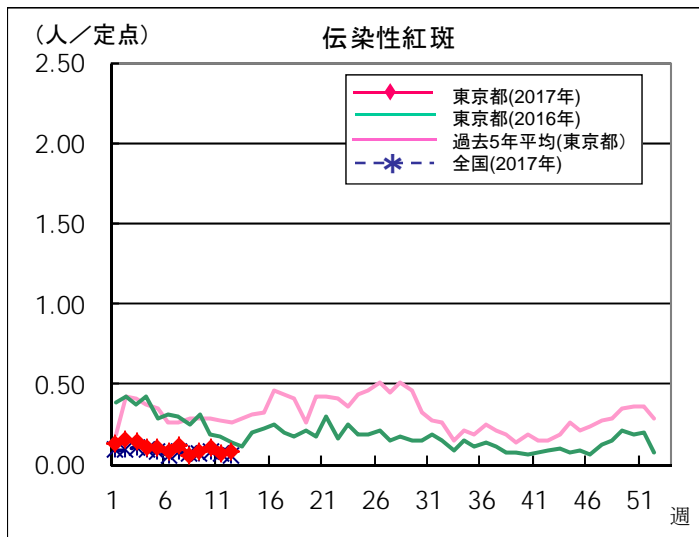
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				5							
中央区	1		4	19							
みなと		8	6	43	1	1		2			2
新宿区	3	1	6	55	1			3			1
文京			7	11				2			
台東	1		7	30				3			
墨田区			1	18	4			2			
江東区	3	1	10	93				2			1
品川区	1	2	5	50	2			3			4
目黒区		2	9	50	11	2	1				1
大田区	3	2	19	94	6		3	3			1
世田谷	2	3	23	74	5	2	1	6			2
渋谷区				24	1			2			1
中野区	1	1	10	70				3			
杉並			5	47	3		1	2			1
池袋		1	2	12	2						
北区	1		4	25	2			5			1
荒川区			11	20				1			2
板橋区	1		7	31	2	1		4			3
練馬区	1	2	31	91	6		1	1			
足立		5	19	134	2			3			4
葛飾区	1	2	8	59	2			3			
江戸川		2	23	87				8			2
八王子市	1		28	153	3		2	4			8
町田市		1	25	80	8	1	2	3			10
西多摩			6	34	3			3			
南多摩	3	1	9	44			1	3		1	
多摩立川		2	39	46	3		5	5			5
多摩府中		3	37	134	5	1	3	11			7
多摩小平	3	13	47	125	3	1	1	12			3
島しょ			7								
東京都合計	26	52	415	1,758	75	9	21	99		1	59

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			25								
中央区			27		1						
みなと			49				1				1
新宿区	2		42					1			
文京			40								
台東		1	26								
墨田区			49								1
江東区			83								
品川区			57								
目黒区			66								
大田区		2	167								
世田谷		3	240		3	1				4	2
渋谷区			23					1		11	
中野区			92								
杉並			87								2
池袋		1	27		1					7	
北区			51								
荒川区			121		1						
板橋区		1	46							3	
練馬区			139		1						
足立			181		1						
葛飾区		1	118		5		1	1		6	1
江戸川			118								
八王子市			156								
町田市			143								
西多摩			64								
南多摩			158								
多摩立川		1	172					1			1
多摩府中		1	260					1	1	3	4
多摩小平	1	2	175		2						4
島しょ			6								
東京都合計	3	13	3,008		15	1	2	5	1	34	16

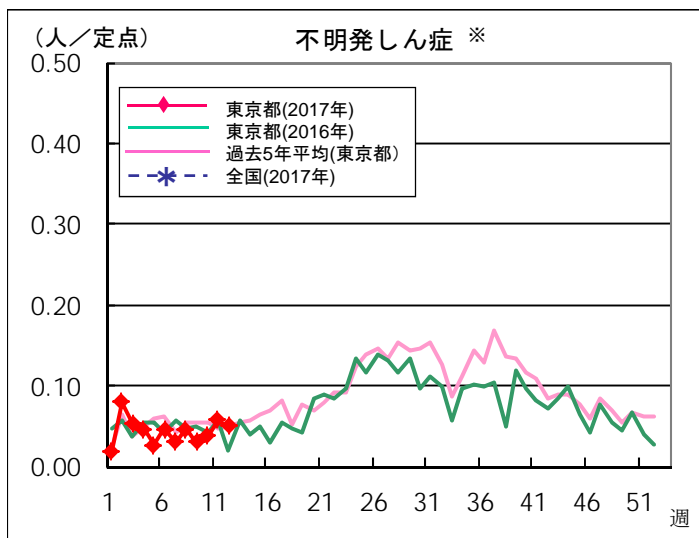
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2017年12週 現在)

◆ 小児科定点



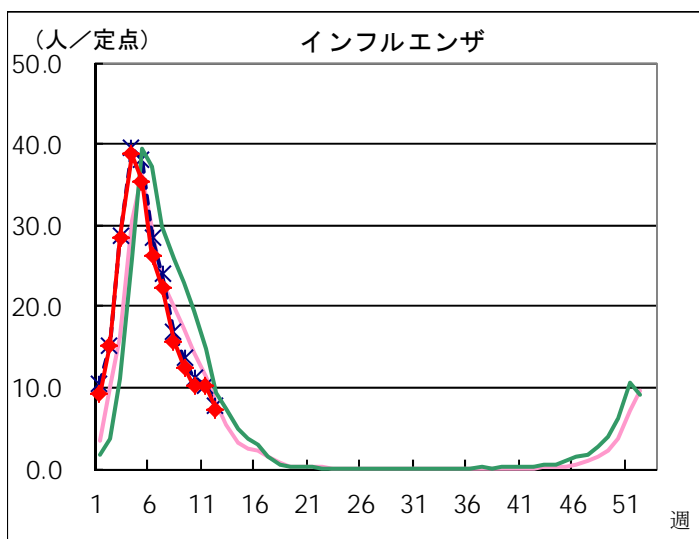


※ 東京都独自対象疾患

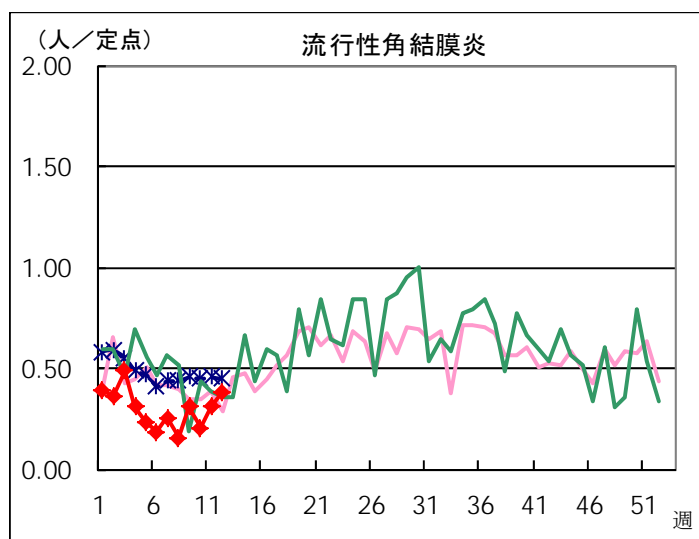
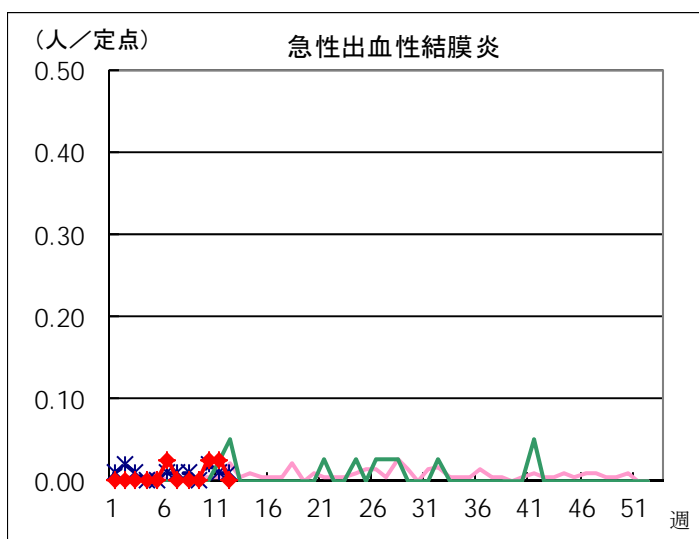


※ 東京都独自対象疾患

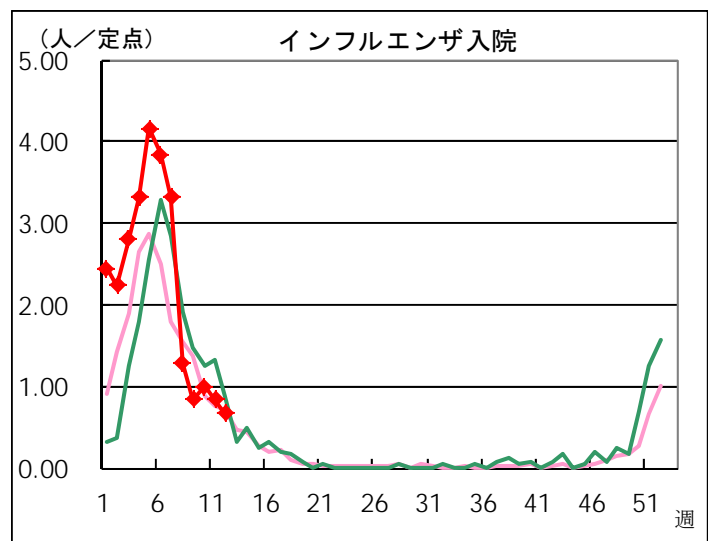
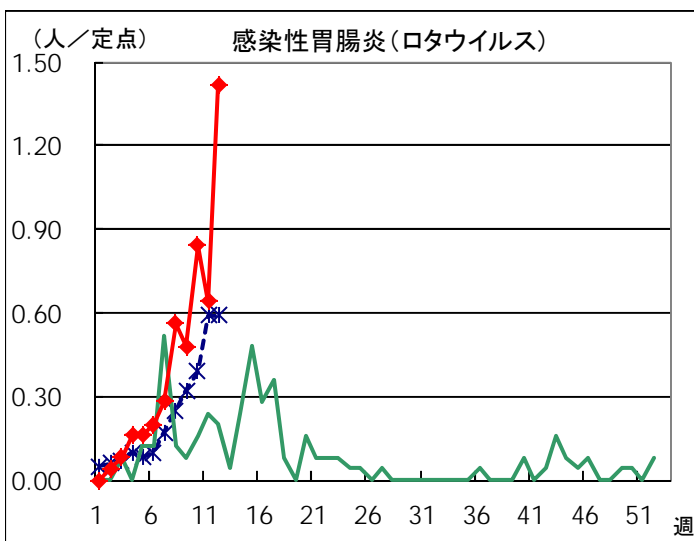
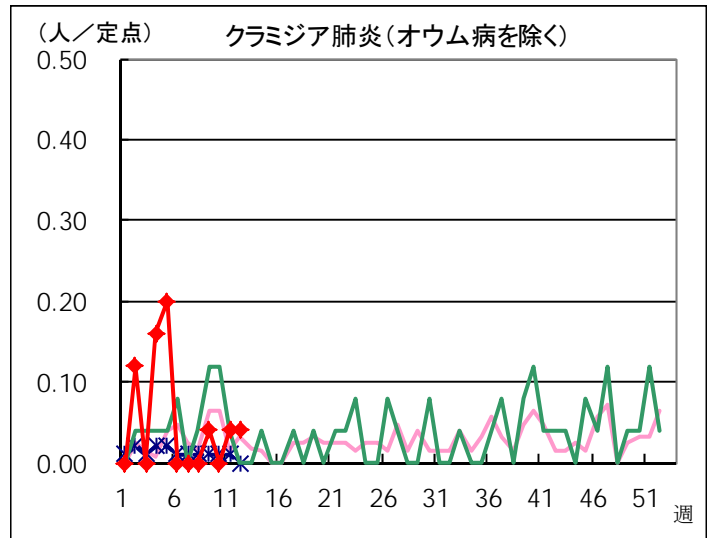
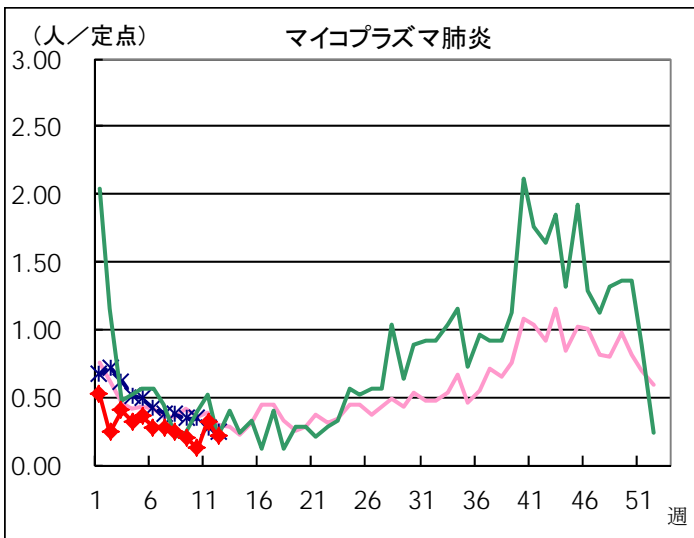
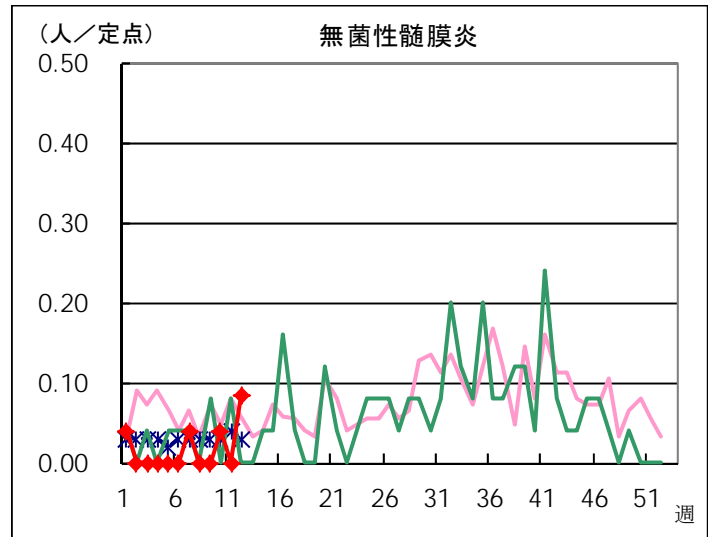
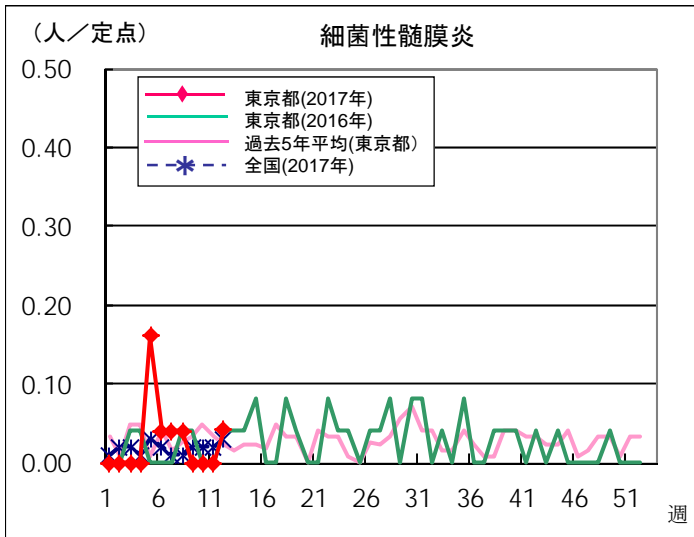
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
3/2	インフルエンザ	1	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型※ エンテロウイルス
3/2	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
3/7	不明発しん症	1	咽頭拭い液	麻疹ウイルスA型 ヒトヘルペスウイルス7型
3/7	流行性耳下腺炎	7	頬粘膜	ムンプスウイルス

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2017年10週			12	4
2016-2017年 シーズン累計*	4		269	36

* 2016-2017年シーズンの開始は第36週(2016年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2017年							
	03週	04週	05週	06週	07週	08週	09週	10週
アデノウイルス		2	1	2	1	3	2	
コクサッキーウイルスA群					1			
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス								1
ライノウイルス	1					1	2	
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス							1	
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1			1	1		1	2
EBウイルス	1					1		
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	1		1	1	2		1	1
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								1
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19							1	
RSウイルス	1			1	1			
ノロウイルス						2		
ロタウイルス	1		2	1	1		5	
サポウイルス					1			
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	25	28	20	25	12	15	14	12
インフルエンザウイルスB型	1	3	4	2	10	3	5	4
インフルエンザウイルスAH1pdm09								
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型								
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型				1				
A群溶血性レンサ球菌T-12型	1	1	1			1	2	
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1			1	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型		1						
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2017年03週～2017年10週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	3	3	12	21	5	4	1	4	1	2	15		21	181	22		2	2	4	1	
アデノウイルス		2												4	4		1				
コクサッキーウイルスA群						1															
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス																					
エンテロウイルス71																					
その他のエンテロウイルス														1							
ライノウイルス						1								2	1						
ヒトメタニューモウイルス																					
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					1																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								4					2								
EBウイルス											2										
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											7										
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)													1								
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19							1														
RSウイルス	3																				
ノロウイルス				2																	
ロタウイルス				10																	
サボウイルス				1																	
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型														146	5						
インフルエンザウイルスB型														32							
インフルエンザウイルスAH1pdm09																					
その他のウイルス																					
A群溶血性レンサ球菌T-1型																					
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型			6																		
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			2																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

性行為感染症の治療と薬剤耐性 (WHO の新たな治療ガイドラインを受けて)

性感染症は、人類の長い歴史の中で、多くの人々を苦しめてきた。そして、今でも多くの感染者が報告され、世界における年間の感染者数は、クラミジア感染症 1 億 3100 万人、淋菌感染症 7800 万人、梅毒 560 万人と推計されている。近年はさまざまな病原体の抗菌薬耐性化が大きな問題となっており、淋菌の多剤耐性化への対応も重要な課題となっていた。このような中で WHO(世界保健機構)は、新たな診療ガイドラインを発表した。

淋菌感染症では、キノロン系薬は高度耐性化で推奨されなくなり、第三世代セファロスポリン系薬の感受性低下も指摘されてきたことから、各国地域の監視データによる治療薬の選択をすすめている。そして、十分なデータがない場合には、単剤投与よりも「セフトリアキソン+アジスロマイシン」などの 2 剤併用を推奨している。また、クラミジア感染症については、これまでの治療方針と大きな変更はないものの、無症状でも生殖機能に影響を与えることを強調している。

梅毒にはベンザチンペニシリンの 1 回筋注が推奨されている。現在、日本においても梅毒が流行していますが、筋注薬が承認されていないため、ペニシリンの内服薬を代用として治療が行われているというのが現状だ。

性感染症に対する安易な抗菌薬の投与、そして誤った治療方針は、結果的に世界における性感染症の治療を困難にさせていく。性感染症は、さまざまな症状によって、泌尿器科や婦人科だけでなく、皮膚科、眼科、内科などの各科を受診することがある。それぞれの診療科の医師が、性感染症を早期に診断して、適切な治療をすることが求められている。

(文責 東京都立駒込病院感染症科部長 今村顕史)